

科目名	日本語日本文学入門		
担当者	嶋田 直哉 / ◎新内 康子 / 安本 真弓		
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	A. (嶋田) 文学作品の読み方について概説する。中学校・高等学校国語教科書でなじみの深い漱石と鷗外について再読を試みる。 B. (安本) 日本語の特徴、および言語の変化に関する問題を取り上げることで、日本語研究における基礎的事項を概説する。 C. (新内) 外国人が使用した日本語の誤用を通して、日本人が言語形成期に自然習得した現代日本語の諸規則を考える。	
	到達目標	A. (嶋田) 論理的に文学作品を読むことができるようになる。 B. (安本) 日本語のあり方やその変化に興味を持ち、言語を研究するための視点や問題点を考える姿勢を身につける。 C. (新内) ことばに対して興味関心が持て、現代日本語の諸規則について考える姿勢を身につける。	
授業計画	(1) ガイダンス 文学作品を読むための準備 (嶋田) (2) 日本近代文学史概観 (嶋田) (3) 夏目漱石の生涯と作品 (嶋田) (4) 夏目漱石「坊っちゃん」を読む (嶋田) (5) 森鷗外の生涯と作品 (嶋田) (6) 森鷗外「舞姫」を読む (嶋田) (7) 日本語の表記 (安本) (8) 日本語の語彙 (安本) (9) 日本語の文法 (安本) (10) 日本語の方言 (安本) (11) 日本語と社会関係 (安本) (12) 日本語の特徴と言語の変化 (安本) (13) 日本語教育の現状。外国人の誤用から考える日本語の諸規則<音声> (新内) (14) 外国人の誤用から考える日本語の諸規則<語彙・表現> (新内) (15) 外国人の誤用から考える日本語の諸規則<文法> (新内)		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・前回の授業内容をよく復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	A: 各自授業の対象となる文庫本を用意。詳しくは初回の授業で説明する。 B: 使用しない。プリントを配付する。 C: 使用しない。プリントを配付する	
	【参】	A: 授業時に適宜指示する。 B: 授業時に適宜指示する。 C: 授業時に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	<基準>	A: 文学作品を論理的に読むことができれば合格とする。 B: 日本語の特徴や言語の変化について理解を深め、その問題点を見出し、考える姿勢を身につけることができれば合格とする。 C: 現代日本語への理解を深め、ある日本語現象の特徴を見出し、まとめることができれば合格とする。	
	<方法>	A: レポート50%、受講態度50% B: テスト60%、受講態度40% C: レポート50%、授業中課題50% ※A, B, Cすべての課題(レポート、テスト等)を行わなければ、評価の対象としない。	
備考			

科目名	英語英米文化入門		
担当者	◎酒瀬川 純行 / 入江 公啓 / マーカス・シオボールド / 蒲地 賢一郎		
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	英米の歴史と文化、文学、英語の歴史等の視点に加えて、実践的な英語教育の必要性まで、多岐にわたり総合的に学習する。英語英米文化コース科目群で学習できること、卒業研究のテーマなど、今後の研究に必要な事項も学ぶ。	
	到達目標	世界の急速な一体化が進む中で、国際語としての英語を実践的に学ぶことと、英米文化を理解することの重要性は益々高まっている。これまでの狭い意味での英語・英米文学という立場から抜け出し、広い文化的視点に立って言語や文化を分析する姿勢、能力をもつようになることが目標である。	
授業計画	(1) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(1) (酒瀬川) (2) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(2) (酒瀬川) (3) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(3) (酒瀬川) (4) 総合的英国研究、時事英語、通訳英語研究(4) (酒瀬川) (5) 英語教育(1) (入江) (6) 英語教育(2) (入江) (7) 英語教育(3) (入江) (8) 英語教育(4) (入江) (9) cross-cultural communication (1) (シオボールド) (10) cross-cultural communication (2) (シオボールド) (11) cross-cultural communication (3) (シオボールド) (12) cross-cultural communication (4) (シオボールド) (13) 英語学(1) (蒲地) (14) 英語学(2) (蒲地) (15) 英語学(3) (蒲地)		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	4回ごとにテストを行う。	
使用教材・参考文献	【教】 各教員が指示する。 【参】 各教員が指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 各教員が基準を示す。 <方法> 各教員がレポートや出席等により評価し、それを総合して最終的な評価を行う。		
備考			

科目名	歴史地理入門		
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh 溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<基礎> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	(前半)歴史学という学問の特性と分野的広がりについて概観し、歴史を学ぶ上で不可欠な基礎的事項について説明する。 (後半)「地理的知識」とはいかなるものか、それに地理学がどのようにアプローチしてきたのかを説明する。	
	到達目標	「歴史とは何か」という問題に対して自分なりに答えられるようになる。 地理学の流れを把握し、地理学とはどのような学問か説明できるようになる。	
授業計画	(1) 歴史とは何か (2) 歴史学の歴史 (1) —近代歴史学の成立 (3) 歴史学の歴史 (2) —マルクス主義歴史学と時代区分論 (4) 歴史学の歴史 (3) —アナル学派と社会史 (5) 歴史の手法—史資料と批判的検討 (6) 様々な歴史学 (7) 歴史学の新しい潮流 (8) 歴史を学ぶ意味 (9) 地理学とは何か (10) 地図と歴史 (1) —地理的知識の拡大と地図 (11) 地図と歴史 (2) —地理的知識の精緻化 (12) 地理的知識とは (13) 近代地理学史 (1) —近代地理学の成立 (14) 近代地理学史 (2) —新しい地理学へ (15) 現代の地理学		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと ・意味のわからない用語は辞書などで事前に調べておくこと。	
	事後学習	・授業で紹介された参考文献を読むこと ・博物館や史跡・名勝などを訪ね、現地で考えること。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は使用しない。授業でレジュメを配布する。	
	【参】	E.H. カー『歴史とは何か』岩波新書、1962年 P. クラヴァル『新しい地理学』文庫クセジュ、1984年	
成績評価方法と基準	<基準>	・(歴史学分野) 歴史学という学問についての概略を理解し、授業内容を踏まえたうえで自分なりに「歴史とは何か」という問題について論じることができていれば合格とします。 ・(地理学分野) 地理学の流れを理解し、地理的知識とは何かについて自らの言葉で論じることができることを基準とします。	
	<方法>	歴史分野と地理分野の成績を50%ずつに換算し合算する。歴史分野、地理分野ともにそれぞれ受講態度が40%、レポートが60%とする。	
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の地理と歴史の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	各自、自ら卒業論文で扱う課題を設定し、参考文献を調べてその内容を報告するとともに、史料の収集、読解を行う。	
	到達目標	卒業論文を書くために、専門的な知識に基づいて課題を設定できるようになる。自らが調べている分野に関する先行研究の状況を把握し、卒論の議論の見通しを立てることができるようになる。自ら調べた内容を報告し、議論することができるようになる。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 報告と議論 (3) 報告と議論 (4) 報告と議論 (5) 報告と議論 (6) 報告と議論 (7) 報告と議論 (8) 報告と議論 (9) 報告と議論 (10) 報告と議論 (11) 報告と議論 (12) 報告と議論 (13) 報告と議論 (14) 報告と議論 (15) 報告と議論		
自学自習	事前学習	報告に向けて、必要な文献を収集し、読み、まとめておくこと。	
	事後学習	報告の際に指摘された問題点について検討し、必要なところは調べておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。各自がレジユメを用意する。 【参】 自ら参考文献を探す。指導教員が参考文献を紹介する場合もある。		
成績評価方法と基準	<基準> 当該分野において、先行研究を踏まえたうえで適切に問題設定ができており、必要な参考文献や史料を収集し、それを整理して報告できていれば合格とします。 <方法> 授業での報告と議論が60%、その結果でできた成果物(レジユメ、論文の草案など)が40%		
備考	史料読解(特に英文)については、別途時間を設けて個別指導を行うこともある。		

科目名	卒業研究 I		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、時代とジャンルによる違いを説明できる。 ・日本文学および中国文学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。具体的な内容は学生の研究対象と論文の題目に因る。	
	到達目標	卒業論文を執筆するために必要なスキル、資料の搜索法、文献の解釈法、研究の方法論を理解する。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 学生と相談してテーマを決定する。 (3) 演習 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	前回の授業で指示された課題の遂行。	
	事後学習	学生の研究対象に応じて、毎回課題を出す。また、前回の課題の結果に追加・訂正を指示する。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 学生の研究対象に合わせて指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 資料の搜索法、文献の解釈法、研究の方法論を理解できれば合格とする。 <方法> 資料の搜索法20%、文献の解釈法20%、研究の方法論20%、出席態度40%。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
		日本語学の分野の先行研究を読み、論点を理解する。	3
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをすることができるようになる。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による (2) " " (3) " " (4) " " (5) " " (6) " " (7) " " (8) " " (9) " " (10) " " (11) " " (12) " " (13) " " (14) " " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 授業時に適宜指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> ゼミ担当教員の評価方法による。 <方法> 60%以上クリアできれば合格とする。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	日本文学および中国文学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	卒業論文で扱うテーマを絞り込み、当該領域における先行研究を整理し、研究を行うに当たっての問題意識を明確化する。古典文学研究の基礎的方法論を学ぶ。	
	到達目標	1) 自分の研究テーマを確定する。 2) 原文の読み込み。 3) 先行研究を収集する。 4) ゼミ生同士がお互いの研究を理解し、批評し合う。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 扱う作品・テーマの絞り込み (演習) (3) 〃 (4) 〃 (5) 作品・テーマを決定し、底本等の入手 (6) 先行する研究文献の収集 (7) 〃 (8) 〃 (9) 対象作品の概略を理解する (演習) (10) 対象作品の読み込み (演習) (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・自分の研究について資料を作成し、報告・発表の準備をする。 ・不明な点を質問できるように準備する。	
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・それらを整理してデータとして蓄積する。	
使用教材・参考文献	【教】 各自の取り上げる作品による。 【参】 受講生それぞれに応じたものを適宜指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 研究対象とする作品とテーマを決定し、底本入手、先行研究論文収集が出来、研究の見通しが立てば合格とする。 <方法> 演習 (70%)、授業参加度 (30%)		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 ゼミ担当教員の指示による。 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 60%以上クリアできれば合格とする。 <方法> ゼミ担当教員の評価方法による。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	人間・文化・社会に関する知識を社会教育の実践に応用できる	1
科目概要	授業内容	演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) 研究の方法、文献収集の方法 (3) 研究テーマに関する概要説明 (4) 研究テーマに関する文献調査 (1) (5) 研究テーマに関する文献調査 (2) (6) 研究テーマに関する文献調査 (3) (7) 研究テーマに関する文献調査 (4) (8) 研究テーマに関する文献調査 (5) (9) 研究テーマに関するディスカッション (1) (10) 研究テーマに関するディスカッション (2) (11) 研究テーマに関するディスカッション (3) (12) 研究テーマに関するディスカッション (4) (13) 研究テーマに関するディスカッション (5) (14) 研究テーマに関するディスカッション (6) (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	配布したプリントは前もって読んでおくこと。	
	事後学習	指示された課題を行うこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 別途指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みができたものは合格とする。 <方法> 受講態度50%、課題ほか50%。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語学、日本語教育の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。 日本語学、日本語教育の分野の先行研究を読み、論点を理解する。	3
科目概要	授業内容	4年時の卒業論文作成のための基礎能力を身につけるために、日本語教育学の社会言語学、対照言語学、類義表現の領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。	
	到達目標	(1) 上記の領域に関する論点と分析方法がわかるようになる。 (2) 卒業論文の作成方法がわかるようになる。 (3) 卒業論文のテーマを見つけ出せる。	
授業計画	(1) 卒業論文の作成方法について (2) 社会言語学の先行研究について(講義) (3) 対照言語学の先行研究について(講義) (4) 類義表現の先行研究について(講義) (5) 発表および議論(演習) (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 〃		
自学自習	事前学習	授業で扱う使用教材を前もって熟読し、内容を把握しておくこと。 発表に備え、関心分野の文献等を探し、熟読すること。	
	事後学習	関心分野の文献等を多く読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを使用する。 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 上記の到達目標を達成できた者を合格とします。 <方法> 授業での積極性(20点)、発表(30点)、レポート(30点)、卒業論文計画書(20点)で評価します。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を的確に英語で理解し、表現することができる。	4
科目概要	授業内容	英語の文献を読み、テーマを探す。研究発表の準備と、その実践。そして、研究論文を書いてみる。	
	到達目標	参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるようになる。	
授業計画	(1) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (2) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (3) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (4) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (5) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (6) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (7) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (8) 英語文を読む。研究発表をする。 (9) 英語文を読む。研究発表をする。 (10) 英語文を読む。研究発表をする。 (11) 英語文を読む。研究発表をする。 (12) 英語文を読む。研究発表をする。 (13) 英語文を読む。研究発表をする。 (14) 英語文を読む。研究発表をする。 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材」を読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書で調べておくこと。	
	事後学習	・授業後に、当日読んだ英語文を再読すること。 ・予習内容と授業内容の類似点、相違点を確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 なし		
成績評価方法と基準	<基準> 参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるものを合格とする。 <方法> reading assignment 50%, presentation 50%		
備考	毎回の予習は必須事項。		

科目名	卒業研究 I		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く説明することができる。	4
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により英国の歴史、文化等に関するテーマについて演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) 卒業論文作成に関するオリエンテーション (2) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (3) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (4) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (5) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (6) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (7) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (8) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (9) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (10) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (11) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (12) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (13) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (14) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	卒業論文テーマに関する資料を読み、発表に備える。	
	事後学習	指導教員の指導に基づき新たな資料等を調べ、発表に備える。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）等を用いる。 【参】 樋口昌幸、PA Goldsbury 『英語論文表現事典』北星堂書店 1982 ISBN4-590-01083-6 研究社出版編集部 『英文科学生必携ハンドブック』 研究社出版 1981 ISBN4-327-48071-1		
成績評価方法と基準	<基準> テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。 <方法> 毎時間の発表（80%）、研究態度（20%）		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を的確に英語で理解し、表現することができる。	4
科目概要	授業内容	Discuss areas of interest for study, research guidance and collaborative writing. それぞれが興味を持った研究や情報源、論文の書き方について話し合います。	
	到達目標	卒業論文のタイトルを決定し、研究内容について理解すること。卒業論文を完成させること。	
授業計画	(1) Continue writing (2) Discuss areas of interest (3) Direct towards areas of research (4) Start writing down chunks of research information (5) Continue writing (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) Assess research and discover a title (12) Continue writing (13) " (14) " (15) Review writing and guide research for the summer		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	ゼミの内容を復習しておくこと。毎週新しい研究内容を書きます。	
使用教材・参考文献	【教】	担当者作成資料	
	【参】	Depending on the student's area of research	
成績評価方法と基準	<基準>	ゼミへ毎週参加し、卒業研究に取り組むこと。	
	<方法>	ゼミ中の発表、コントリビューション100%	
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本文学および中国文学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は特に指定しない。	
	【参】	ゼミ担当教員の指示による	
成績評価方法と基準	<基準>	60%以上クリアできれば合格とする。	
	<方法>	ゼミ担当教員の評価方法による。	
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語学、日本語教育の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	4年次における卒業論文作成のための基礎能力が身につけられるよう、日本語教育学の日本語教育史・第二言語習得・対照言語学などの領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。	
	到達目標	1. 上記の領域に関する論点と分析方法がわかるようになる。 2. 論文の作成方法がわかるようになる。 3. 卒業論文のテーマが見つげ出せる。	
授業計画	(1) 日本語教育史の先行研究について (講義) (2) 日本語教育史の先行研究について (講義) (3) 日本語教育史の先行研究について (講義) (4) 同上に関する発表 (演習) (5) 同上に関する発表 (演習) (6) 第二言語習得の先行研究について (講義) (7) 第二言語習得の先行研究について (講義) (8) 第二言語習得の先行研究について (講義) (9) 同上に関する発表 (演習) (10) 同上に関する発表 (演習) (11) 対照言語学の先行研究について (講義) (12) 対照言語学の先行研究について (講義) (13) 対照言語学の先行研究について (講義) (14) 同上に関する発表 (演習) (15) 同上に関する発表 (演習)		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・発表に備え興味のある文献等をできるかぎり多く読むこと。	
	事後学習	・ 発表したこと等以外にも多くの文献を読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。	
使用教材・参考文献	【教】 プリント 関正昭『日本語教育史研究序説』1997年 スリーエーネットワーク 【参】 迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』2002年 アルク 水谷信子『続日英比較話しことばの文法』2001年 くろしお出版		
成績評価方法と基準	<基準> 日本語教育史・第二言語習得・対照言語学といった分野の論点と分析方法、論文の作成方法がわかり、卒業論文のテーマが見つげ出せれば、合格とする。 <方法> 授業における積極性 (20点)、発表 (30点)、レポート (30点)、卒業論文計画書 (20点)		
備考	日本語教育関係の科目を履修している者を対象とする。		

科目名	卒業研究 I		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査とそのデータ整理の結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会へ参加し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢をもって調査し、論文にまとめることができるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	地理学に関する基礎的な文献および研究論文を読んでまとめ、発表を行う。	
	到達目標	卒業論文の研究テーマを絞り込み、その分野に関する研究動向を把握する。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献検索 (3) 発表およびディスカッション (4) 発表およびディスカッション (5) 発表およびディスカッション (6) 発表およびディスカッション (7) 発表およびディスカッション (8) 発表およびディスカッション (9) 発表およびディスカッション (10) 発表およびディスカッション (11) 発表およびディスカッション (12) 発表およびディスカッション (13) 発表およびディスカッション (14) 発表およびディスカッション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・常に自らに必要と思われる文献がないか調べてみること。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・自らの発表や他の学生の発表結果を振り返り、次の文献検索につなげていくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 参考文献は特に指定しない。		
成績評価方法と基準	<基準> 卒業論文の研究テーマを絞り込み、そのテーマに関する研究動向を理解していることを基準とする。 <方法> 発表70%・受講態度30%		
備考	授業には積極的に参加してください。		

科目名	卒業研究 I		
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。 自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査とそのデータ整理の結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員による史料解説 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) 学生による発表(史料解説) (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 古文書・古記録の史料を配布する。 【参】 『戦国大名の古文書・西日本編』 柏書房ほか		
成績評価方法と基準	<基準> 発表内容(史料解説および論理構築) <方法> 発表内容が妥当であり、説得性がおおむねあれば合格とする		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の地理と歴史の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	各自、自ら卒業論文で扱う課題を設定し、参考文献を調べてその内容を報告するとともに、史料の収集、読解を行う。	
	到達目標	卒業論文を書くために、専門的な知識に基づいて課題を設定できるようになる。自らが調べている分野に関する先行研究の状況を把握し、卒論の議論の見通しを立てることができるようになる。自ら調べた内容を報告し、議論することができるようになる。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 報告と議論 (3) 報告と議論 (4) 報告と議論 (5) 報告と議論 (6) 報告と議論 (7) 報告と議論 (8) 報告と議論 (9) 報告と議論 (10) 報告と議論 (11) 報告と議論 (12) 報告と議論 (13) 報告と議論 (14) 報告と議論 (15) 報告と議論		
自学自習	事前学習	報告に向けて、必要な文献を収集し、読み、まとめておくこと。	
	事後学習	報告の際に指摘された問題点について検討し、必要なところは調べておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。各自がレジユメを用意する。 【参】 自ら参考文献を探す。指導教員が参考文献を紹介する場合もある。		
成績評価方法と基準	<基準> 当該分野において、先行研究を踏まえたうえで適切に問題設定ができており、必要な参考文献や史料を収集し、それを整理して報告できていれば合格とします。 <方法> 授業での報告と議論が60%、その結果でできた成果物(レジユメ、論文の草案など)が40%		
備考	史料読解(特に英文)については、別途時間を設けて個別指導を行うこともある。		

科目名	卒業研究 I		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・日本文学および中国文学作品を読んで、時代とジャンルによる違いを説明できる。 ・日本文学および中国文学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。具体的な内容は学生の研究対象と論文の題目に因る。	
	到達目標	卒業論文を執筆するために必要なスキル、資料の搜索法、文献の解釈法、研究の方法論を理解する。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 学生と相談してテーマを決定する。 (3) 演習 (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	前回の授業で指示された課題の遂行。	
	事後学習	学生の研究対象に応じて、毎回課題を出す。また、前回の課題の結果に追加・訂正を指示する。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 学生の研究対象に合わせて指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 資料の搜索法、文献の解釈法、研究の方法論を理解できれば合格とする。 <方法> 資料の搜索法20%、文献の解釈法20%、研究の方法論20%、出席態度40%。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
		日本語学の分野の先行研究を読み、論点を理解する。	3
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをすることができるようになる。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 授業時に適宜指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> ゼミ担当教員の評価方法による。 <方法> 60%以上クリアできれば合格とする。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	日本文学および中国文学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	卒業論文で扱うテーマを絞り込み、当該領域における先行研究を整理し、研究を行うに当たっての問題意識を明確化する。古典文学研究の基礎的方法論を学ぶ。	
	到達目標	1) 自分の研究テーマを確定する。 2) 原文の読み込み。 3) 先行研究を収集する。 4) ゼミ生同士がお互いの研究を理解し、批評し合う。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 扱う作品・テーマの絞り込み (演習) (3) 〃 (4) 〃 (5) 作品・テーマを決定し、底本等の入手 (6) 先行する研究文献の収集 (7) 〃 (8) 〃 (9) 対象作品の概略を理解する (演習) (10) 対象作品の読み込み (演習) (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・自分の研究について資料を作成し、報告・発表の準備をする。 ・不明な点を質問できるように準備する。	
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・それらを整理してデータとして蓄積する。	
使用教材・参考文献	【教】 各自の取り上げる作品による。 【参】 受講生それぞれに応じたものを適宜指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 研究対象とする作品とテーマを決定し、底本入手、先行研究論文収集が出来、研究の見通しが立てば合格とする。 <方法> 演習 (70%)、授業参加度 (30%)		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 ゼミ担当教員の指示による。 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 60%以上クリアできれば合格とする。 <方法> ゼミ担当教員の評価方法による。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	人間・文化・社会に関する知識を社会教育の実践に応用できる	1
科目概要	授業内容	演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) 授業概要説明 (2) 研究の方法、文献収集の方法 (3) 研究テーマに関する概要説明 (4) 研究テーマに関する文献調査 (1) (5) 研究テーマに関する文献調査 (2) (6) 研究テーマに関する文献調査 (3) (7) 研究テーマに関する文献調査 (4) (8) 研究テーマに関する文献調査 (5) (9) 研究テーマに関するディスカッション (1) (10) 研究テーマに関するディスカッション (2) (11) 研究テーマに関するディスカッション (3) (12) 研究テーマに関するディスカッション (4) (13) 研究テーマに関するディスカッション (5) (14) 研究テーマに関するディスカッション (6) (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	配布したプリントは前もって読んでおくこと。	
	事後学習	指示された課題を行うこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 別途指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みができたものは合格とする。 <方法> 受講態度50%、課題ほか50%。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本語学、日本語教育の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。 日本語学、日本語教育の分野の先行研究を読み、論点を理解する。	3
科目概要	授業内容	4年時の卒業論文作成のための基礎能力を身につけるために、日本語教育学の社会言語学、対照言語学、類義表現の領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。	
	到達目標	(1) 上記の領域に関する論点と分析方法がわかるようになる。 (2) 卒業論文の作成方法がわかるようになる。 (3) 卒業論文のテーマを見つけ出せる。	
授業計画	(1) 卒業論文の作成方法について (2) 社会言語学の先行研究について (講義) (3) 対照言語学の先行研究について (講義) (4) 類義表現の先行研究について (講義) (5) 発表および議論 (演習) (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) "		
自学自習	事前学習	授業で扱う使用教材を前もって熟読し、内容を把握しておくこと。発表に備え、関心分野の文献等を探し、熟読すること。	
	事後学習	関心分野の文献等を多く読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを使用する。 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 上記の到達目標を達成できた者を合格とします。 <方法> 授業での積極性(20点)、発表(30点)、レポート(30点)、卒業論文計画書(20点)で評価します。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を的確に英語で理解し、表現することができる。	4
科目概要	授業内容	英語の文献を読み、テーマを探す。研究発表の準備と、その実践。そして、研究論文を書いてみる。	
	到達目標	参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるようになる。	
授業計画	(1) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (2) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (3) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (4) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (5) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (6) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (7) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (8) 英語文を読む。研究発表をする。 (9) 英語文を読む。研究発表をする。 (10) 英語文を読む。研究発表をする。 (11) 英語文を読む。研究発表をする。 (12) 英語文を読む。研究発表をする。 (13) 英語文を読む。研究発表をする。 (14) 英語文を読む。研究発表をする。 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材」を読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書で調べておくこと。	
	事後学習	・授業後に、当日読んだ英語文を再読すること。 ・予習内容と授業内容の類似点、相違点を確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 なし		
成績評価方法と基準	<基準> 参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるものを合格とする。 <方法> reading assignment 50%, presentation 50%		
備考	毎回の予習は必須事項。		

科目名	卒業研究 I		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く説明することができる。	4
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により英国の歴史、文化等に関するテーマについて演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) 卒業論文作成に関するオリエンテーション (2) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (3) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (4) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (5) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (6) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (7) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (8) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (9) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (10) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (11) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (12) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (13) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (14) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	卒業論文テーマに関する資料を読み、発表に備える。	
	事後学習	指導教員の指導に基づき新たな資料等を調べ、発表に備える。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）等を用いる。 【参】 樋口昌幸、PA Goldsbury 『英語論文表現事典』北星堂書店 1982 ISBN4-590-01083-6 研究社出版編集部 『英文科学生必携ハンドブック』 研究社出版 1981 ISBN4-327-48071-1		
成績評価方法と基準	<基準> テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。 <方法> 毎時間の発表（80%）、研究態度（20%）		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	マーカス・シオボールド / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を的確に英語で理解し、表現することができる。	4
科目概要	授業内容	Discuss areas of interest for study, research guidance and collaborative writing. それぞれが興味を持った研究や情報源、論文の書き方について話し合います。	
	到達目標	卒業論文のタイトルを決定し、研究内容について理解すること。卒業論文を完成させること。	
授業計画	(1) Continue writing (2) Discuss areas of interest (3) Direct towards areas of research (4) Start writing down chunks of research information (5) Continue writing (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) Assess research and discover a title (12) Continue writing (13) " (14) " (15) Review writing and guide research for the summer		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	ゼミの内容を復習しておくこと。毎週新しい研究内容を書きます。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 Depending on the student's area of research		
成績評価方法と基準	<基準> ゼミへ毎週参加し、卒業研究に取り組むこと。 <方法> ゼミ中の発表、コントリビューション100%		
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	日本文学および中国文学の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は特に指定しない。	
	【参】	ゼミ担当教員の指示による	
成績評価方法と基準	<基準>	60%以上クリアできれば合格とする。	
	<方法>	ゼミ担当教員の評価方法による。	
備考			

科目名	卒業研究 I		
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	・日本語学、日本語教育の分野における論点と分析方法を理解し、卒業論文のテーマを見つけ出せる。	3
科目概要	授業内容	4年次における卒業論文作成のための基礎能力が身につけられるよう、日本語教育学の日本語教育史・第二言語習得・対照言語学などの領域に関する問題と論点を知り、それらの問題解決の方法論について考える。	
	到達目標	1. 上記の領域に関する論点と分析方法がわかるようになる。 2. 論文の作成方法がわかるようになる。 3. 卒業論文のテーマが見つげ出せる。	
授業計画	(1) 日本語教育史の先行研究について (講義) (2) 日本語教育史の先行研究について (講義) (3) 日本語教育史の先行研究について (講義) (4) 同上に関する発表 (演習) (5) 同上に関する発表 (演習) (6) 第二言語習得の先行研究について (講義) (7) 第二言語習得の先行研究について (講義) (8) 第二言語習得の先行研究について (講義) (9) 同上に関する発表 (演習) (10) 同上に関する発表 (演習) (11) 対照言語学の先行研究について (講義) (12) 対照言語学の先行研究について (講義) (13) 対照言語学の先行研究について (講義) (14) 同上に関する発表 (演習) (15) 同上に関する発表 (演習)		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・発表に備え興味のある文献等をできるかぎり多く読むこと。	
	事後学習	・ 発表したこと等以外にも多くの文献を読み、卒業論文のテーマを探し出すこと。	
使用教材・参考文献	【教】 プリント 関正昭『日本語教育史研究序説』1997年 スリーエーネットワーク 【参】 迫田久美子『日本語教育に生かす第二言語習得研究』2002年 アルク 水谷信子『続日英比較話しことばの文法』2001年 くろしお出版		
成績評価方法と基準	<基準> 日本語教育史・第二言語習得・対照言語学といった分野の論点と分析方法、論文の作成方法がわかり、卒業論文のテーマが見つげ出せれば、合格とする。 <方法> 授業における積極性 (20点)、発表 (30点)、レポート (30点)、卒業論文計画書 (20点)		
備考	日本語教育関係の科目を履修している者を対象とする。		

科目名	卒業研究 I		
担当者	宗 建郎 / S0, Tatsuro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査とそのデータ整理の結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会へ参加し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢をもって調査し、論文にまとめることができるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	地理学に関する基礎的な文献および研究論文を読んでまとめ、発表を行う。	
	到達目標	卒業論文の研究テーマを絞り込み、その分野に関する研究動向を把握する。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献検索 (3) 発表およびディスカッション (4) 発表およびディスカッション (5) 発表およびディスカッション (6) 発表およびディスカッション (7) 発表およびディスカッション (8) 発表およびディスカッション (9) 発表およびディスカッション (10) 発表およびディスカッション (11) 発表およびディスカッション (12) 発表およびディスカッション (13) 発表およびディスカッション (14) 発表およびディスカッション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・常に自らに必要と思われる文献がないか調べてみること。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・自らの発表や他の学生の発表結果を振り返り、次の文献検索につなげていくこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 参考文献は特に指定しない。		
成績評価方法と基準	<基準> 卒業論文の研究テーマを絞り込み、そのテーマに関する研究動向を理解していることを基準とする。 <方法> 発表70%・受講態度30%		
備考	授業には積極的に参加してください。		

科目名	卒業研究 I		
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。 自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査とそのデータ整理の結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員による史料解説 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) 学生による発表(史料解説) (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 古文書・古記録の史料を配布する。 【参】 『戦国大名の古文書・西日本編』 柏書房ほか		
成績評価方法と基準	<基準> 発表内容(史料解説および論理構築) <方法> 発表内容が妥当であり、説得性がおおむねあれば合格とする		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰに引き続いて、自ら選んだ課題について参考文献、史料を収集して整理し、卒業論文の執筆を行う。	
	到達目標	必要な参考文献を集めて、その内容を適切に整理することができるようになる。先行研究を踏まえたうえで、参考文献や史料を用いて自ら議論を組み立て、論文にまとめることができるようになる。	
授業計画	(1) 報告と議論 (2) 報告と議論 (3) 報告と議論 (4) 報告と議論 (5) 報告と議論 (6) 報告と議論 (7) 報告と議論 (8) 報告と議論 (9) 報告と議論 (10) 報告と議論 (11) 報告と議論 (12) 報告と議論 (13) 報告と議論 (14) 報告と議論 (15) 報告と議論		
自学自習	事前学習	報告に向けて、参考文献や史料の収集、内容整理をしておく。授業での指示に従い、論文にまとめていく。	
	事後学習	授業で指摘された問題点、課題について対応する。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。報告時に自らレジюмеを作成すること。 【参】 参考文献は自ら探すこと。担当教員が紹介することもある。		
成績評価方法と基準	<基準> 先行研究を踏まえたうえで、自ら探した参考文献や史料を使い、自分で議論を組み立てることができていれば合格とします。 <方法> 授業中の議論と報告が60%、作成したレジюмеや途中の草稿が40%		
備考	卒業研究Ⅰを必ず受講していること。		

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	・卒業論文を作成するための論点と分析方法を決定できる。 ・日本文学・中国文学の分野で、卒業論文を作成できる。	4
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。具体的な内容は学生の研究対象と論文の題目に因る。	
	到達目標	卒業論文を完成できる。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 学生と相談して論文の題目の再確認。 (3) 演習 (4) 〃 (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 〃 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) 〃 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	前回の授業で指示された課題の遂行。	
	事後学習	学生の研究対象に応じて、毎回課題を出す。また、前回の課題の結果に追加・訂正を指示する。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は特に指定しない。	
	【参】	学生の研究対象に合わせて指示する。	
成績評価方法と基準	<基準> 卒業論文を完成できれば合格とする。 <方法> 資料の搜索と解釈25%、問題の設定と論証25%、論理的な文章25%、出席態度25%。		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	卒業論文を作成するための論点と分析方法を決定できる。	4
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、より具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。	
	到達目標	卒業論文を作成するために、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをすることができ、論文の下書きができるようになる。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による (2) " " (3) " " (4) " " (5) " " (6) " " (7) " " (8) " " (9) " " (10) " " (11) " " (12) " " (13) " " (14) " " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 授業時に適宜指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> ゼミ担当教員の評価方法による。 <方法> 60%以上クリアできれば合格とする。		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	山崎 桂子 / YAMASAKI, Keiko		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本文学に関する基本的知識・能力および生涯にわたって文学に親しもうとする態度	卒業論文を作成するための論点と分析方法を決定できる。	4
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に深く対象作品を読み込む。卒業論文作成の仕方を学び、執筆に向けてアウトラインを描き、章立てを確定する。先行研究を批判的に読み、自論展開の余地を探る。	
	到達目標	1) 自分の研究テーマをサポートする資料等の収集。 2) 収集した先行研究の読み込みと理解。 3) アウトライン・章立ての確定。 4) ゼミ生同士がお互いの研究を理解し、批評し合う。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 対象作品と資料の深い読み込み(演習) (3) 〃 (4) 〃 (5) 先行研究論文の読解(演習) (6) 〃 (7) アウトライン・章立ての決定(演習) (8) レポートの執筆 (9) 論文作法等書き方の個別指導 (10) 〃 (11) 卒論中間発表用の資料作成 (12) 〃 (13) 〃 (14) プレ卒論中間発表 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・自分の研究について資料を作成し、報告・発表の準備をする。 ・不明な点を質問できるように準備する。	
	事後学習	・演習で指摘された不備・問題点を解決する。 ・それらを整理してデータとして蓄積する。	
使用教材・参考文献	【教】 【参】 受講生それぞれに応じたものを適宜指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> アウトライン・章立てを確定し、レポートを提出する。その上でプレ卒論中間発表をゼミ内で行えれば合格とする。 <方法> レポート(60%)、演習(30%)、授業参加度(10%)		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。	
	到達目標	卒業論文を完成させる。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 ゼミ担当教員の指示による。 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 60%以上クリアできれば合格とする。 <方法> ゼミ担当教員の評価方法による。		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	入江 公啓 / IRIE, Kimihiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	人間・文化・社会に関する知識を社会教育の実践に応用できる	1
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。	
	到達目標	卒業論文を完成させる。	
授業計画	(1) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (1) (2) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (2) (3) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (3) (4) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (4) (5) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (5) (6) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (6) (7) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (7) (8) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (8) (9) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (9) (10) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (10) (11) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (11) (12) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (12) (13) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (13) (14) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (14) (15) 卒業論文についてのディスカッション、作成、校正 (15)		
自学自習	事前学習	配布したプリントは前もって読んでおくこと。	
	事後学習	指示された課題を行うこと。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】 別途指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 卒業論文を完成できたものは合格とする。 <方法> 受講態度40%、卒業論文60%。		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	卒業論文を作成するための論点と分析方法を決定できる。 日本語学・日本語教育学の分野で、卒業論文を作成できる。	4
科目概要	授業内容	テーマに関連した先行研究の問題と論点を知り、研究計画に基づいて調査、データの分析、考察を行い、卒業論文を作成する。	
	到達目標	(1) 卒業論文を作成するための論点と分析方法を決定できる。 (2) 日本語教育学の分野で、卒業論文を作成できる。	
授業計画	(1) 卒業論文の作成方法について (2) テーマ、研究目的、研究方法、研究の意義 (3) 研究計画 (4) 先行研究について (5) 〃 (6) 〃 (7) 〃 (8) 先行研究をまとめる (9) 調査方法、サンプル調査 (10) データ収集 (11) 〃 (12) 〃 (13) データの分析および考察 (14) 〃 (15) 〃		
自学自習	事前学習	卒業論文のテーマに関連した先行研究を読み、問題と論点を理解すること。	
	事後学習	研究計画に基づき、調査、データの分析、考察を行い、卒業論文を作成すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 上記の到達目標を達成できた者を合格とします。 <方法> 授業での積極性(20点)、発表(50点)、卒業論文中間発表(30点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を的確に英語で理解し、表現することができる。	4
科目概要	授業内容	英語の文献を読み、テーマを探す。研究発表の準備と、その実践。そして、研究論文を書いてみる。	
	到達目標	参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるようになる。	
授業計画	(1) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (2) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (3) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (4) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (5) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (6) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (7) 英語文を読む。研究発表の準備をする。 (8) 英語文を読む。研究発表をする。 (9) 英語文を読む。研究発表をする。 (10) 英語文を読む。研究発表をする。 (11) 英語文を読む。研究発表をする。 (12) 英語文を読む。研究発表をする。 (13) 英語文を読む。研究発表をする。 (14) 英語文を読む。研究発表をする。 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材」を読んでおくこと。 ・意味のわからない単語は辞書で調べておくこと。	
	事後学習	・授業後に、当日読んだ英語文を再読すること。 ・予習内容と授業内容の類似点、相違点を確認すること。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。	
	【参】	なし	
成績評価方法と基準	<基準>	参考文献を英語で読める、要約ができる、そして、自分なりの意見、考えを述べられるものを合格とする。	
	<方法>	reading assignment 50%, presentation 50%	
備考	毎回の予習は必須事項。		

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	酒瀬川 純行 / SAKASEGAWA, Sumiyuki		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	英米の言語・文化・文学・歴史に関する深い理解と専門的知識	英米の言語・文化・文学・歴史の特定の専門的事項について深く説明することができる。	1
科目概要	授業内容	ゼミ担当教員の指示により英国の歴史、文化等に関するテーマについて演習形態で卒業論文作成に向けた研究を行う。	
	到達目標	卒業論文を作成するために必要な研究の方法論や文献収集法を学び、自らの問題意識の焦点化と研究テーマの絞り込みをする。	
授業計画	(1) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (2) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (3) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (4) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (5) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (6) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (7) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (8) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (9) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (10) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (11) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (12) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (13) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (14) 卒業論文のテーマに関する資料収集と発表、指導教員のアドヴァイス。 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	卒業論文テーマに関する資料を読み、発表に備える。	
	事後学習	指導教員の指導に基づき新たな資料等を調べ、発表に備える。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）等を用いる。 【参】 樋口昌幸、PA Goldsbury 『英語論文表現事典』北星堂書店 1982 ISBN4-590-01083-6 研究社出版編集部 『英文科学生必携ハンドブック』 研究社出版 1981 ISBN4-327-48071-1		
成績評価方法と基準	<基準> テーマに沿って研究方法を設定、資料収集し、論文作成の準備ができた者は合格とする。 <方法> 毎時間の発表（80%）、研究態度（20%）		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	マーカス・シオボード / Marcus Theobald		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	高度の英語運用能力	専門的な内容を的確に英語で理解し、表現することができる。	4
科目概要	授業内容	Discuss areas of interest for study, research guidance and collaborative writing. それぞれが興味を持った研究や情報源、論文の書き方について話し合います。	
	到達目標	研究内容について理解すること。卒業論文を完成させること。	
授業計画	(1) Continue writing (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) Complete first draft (11) Arrange chapters and contents (12) Compile second draft (13) Add final pieces of necessary information (14) Produce final report (15) Practice presentation of research		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	ゼミの内容を復習しておくこと。毎週新しい研究内容を書きます。	
使用教材・参考文献	【教】 担当者作成資料 【参】 Depending on the student's area of research		
成績評価方法と基準	<基準> ゼミへ毎週参加し、卒業研究に取り組むこと。 <方法> ゼミ中の発表と論文		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	嶋田直哉 / SHIMADA, Naoya		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	卒業論文を作成するための論点と分析方法を決定できる。	4
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえてより具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。	
	到達目標	卒業論文を完成させる。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員の指示による。 (2) " (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 ゼミ担当教員の指示による 【参】 ゼミ担当教員の指示による		
成績評価方法と基準	<基準> 60%以上クリアできれば合格とする。 <方法> ゼミ担当教員の評価方法による。		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本語に関する基本的知識・能力および優れた日本語の使い手であろうとする態度	卒業論文を作成するための論点と分析方法を決定できる。	4
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで決めた卒業論文テーマについて、多くの先行研究を読み要約し、具体的な論点を浮き彫りにし、卒業論文に用いる分析方法と論文の構成を決める。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文の詳細なテーマが決められる。 2. 先行研究が適切に要約できる。 3. 卒業論文に用いる分析方法が決められる。 4. 卒業論文の構成が決められる。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業概要説明。卒業研究Ⅰで提出した卒業論文計画書の検討。 (2) 先行研究①発表と検討 (3) 先行研究②発表と検討 (4) 先行研究③発表と検討 (5) 卒業論文題目の具体的な検討 (6) 先行研究④発表と検討 (7) 先行研究⑤発表と検討 (8) 先行研究⑥発表と検討 (9) 先行研究⑦発表と検討 (10) 先行研究⑧発表と検討 (11) 先行研究⑨発表と検討 (12) 先行研究⑩発表と検討 (13) 卒業論文に用いる分析方法の検討 (14) 卒業論文の構成の発表と検討 (15) 卒業論文「1. はじめに」「2. 先行研究」の文章検討 		
自学自習	事前学習	・卒業論文のテーマに関わる先行研究を探し出し、読み、適切に要約しておくこと。	
	事後学習	・発表後の検討で指摘された内容を再確認し、訂正・加筆等しておくこと。	
使用教材・参考文献	<p>【教】</p> <p>【参】 必要なものは授業時に適宜指示する。</p>		
成績評価方法と基準	<p><基準> 卒業論文のテーマにもとづき、卒業論文の「1. はじめに」「2. 先行研究」がまとめられれば、合格とする。</p> <p><方法> 発表(50点)、レポート(50点)</p>		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	宗 建郎 / SO, Tatsuro		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査とそのデータ整理の結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	地域社会に積極的に参加・貢献し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢	地域社会へ参加し、異なる文化的背景の人々と共存する姿勢をもって調査し、論文にまとめることができるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	日本と外国の歴史と地理の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。研究の内容を口頭で発表できるようになる。	
	到達目標	卒業論文の研究テーマに必要な方法論を身につける。研究対象地域について基礎的な知識を身につける。	
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献検索 (3) 発表およびディスカッション (4) 発表およびディスカッション (5) 発表およびディスカッション (6) 発表およびディスカッション (7) 研究対象地域選定 (8) 事前調査 (9) 事前調査 (10) 発表およびディスカッション (11) 発表およびディスカッション (12) 発表およびディスカッション (13) 発表およびディスカッション (14) 発表およびディスカッション (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・常に自らに必要と思われる文献がないか調べてみる。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・自らの発表や他の学生の発表結果を振り返り、次の文献検索および研究対象地域選定につなげていくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は特に指定しない。	
	【参】	参考文献は特に指定しない。	
成績評価方法と基準	<基準>	卒業論文作成に必要な研究法を身につけていること、および研究対象地域について基礎的な情報を収集していることを基準とする。	
	<方法>	発表70%、受講態度30%	
備考	授業には積極的に参加してください。		

科目名	卒業研究Ⅱ		
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi		
科目情報	人間文化<卒業> / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 4年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	日本と外国の歴史と地理の概略的知識	日本と外国の歴史と地理の知識に基づき、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	自然・社会・政治・文化・考古・民俗・思想・地域の観点から問題を専門的に探求する姿勢	自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。 自然・社会・考古・地域などの観点から、専門的に問題を探求して、論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	文献・資料を探索し活用する能力	文献・資料を用いて研究を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	野外での計測や聞き取り調査を行い、その結果を整理する基本的能力	野外での計測・調査とそのデータ整理の結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
	豊かなコミュニケーション能力	自ら構築した人間関係を通じて調査を行い、その結果を論文にまとめることができるようになる。 研究の内容を口頭で発表できるようになる。	4
科目概要	授業内容	卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、より具体的に卒業論文作成の仕方を学び、執筆に取り組む。	
	到達目標	卒業論文を完成させる。	
授業計画	(1) ゼミ担当教員によるオリエンテーション (2) 学生による発表(史料解説と論理構築) (3) " (4) " (5) " (6) " (7) " (8) " (9) " (10) " (11) " (12) " (13) " (14) " (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。	
	事後学習	新たに出た課題について調べる。	
使用教材・参考文献	【教】 古文書・古記録の史料を配布する。 【参】 『鹿兒島県史料・旧記雑録』ほか。		
成績評価方法と基準	<基準> 発表内容(史料解釈および論理構築) <方法> 卒論内容が妥当であり、説得性がおおむねあれば合格とする。		
備考			

科目名	生涯学習概論 I		
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次		
	学芸員・司書・社会教育主事資格科目 / 必修（法定科目名「生涯学習概論」）		
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会を探究する学問分野の概要を理解する	1
科目概要	授業内容	現代はあらゆる活動が知識や情報が直接的な基盤となる知識社会であるといわれている。そうした時代に生きる私たちは、学校などでの一時期の学習だけでなく、生涯にわたる学習が不可欠となっている。そうした視点から、今日に生きるための学習のあり方をとともに考える。	
	到達目標	現代における教育・学習の意味を理解する。 生涯にわたる教育・学習の仕組みとその意味を知る。 自らの生涯学習のイメージをつかむ。	
授業計画	(1) 「学び」の意味と生涯学習 (2) 生涯学習の歴史 (3) 学校と生涯学習 (4) 地方自治体と生涯学習・社会教育 (5) 生涯学習・社会教育と法 (6) 生涯学習・社会教育施設 (7) 生涯学習・社会教育の内容と方法 (8) 生涯学習・社会教育実践の諸相－NPO・ボランティア活動 (9) " －女性の生活の変化と生涯学習 (10) " －子育て・青少年教育と生涯学習 (11) " －高齢者と生涯学習 (12) " －まちづくりと生涯学習 (13) " －情報化と生涯学習 (14) " －グローバリゼーションと生涯学習 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。	
使用教材・参考文献	【教】	教科書は使用しない。講義中に配布するプリントを用いる。	
	【参】	丸山英樹・大田美幸『ノンフォーマル教育の可能性』新評論 2013年／田中雅文ほか『テキスト生涯学習』学文社 2008年／『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年／『月刊社会教育』国土社	
成績評価方法と基準	<基準>	現代における生涯学習の意味を理解し、社会における生涯学習のあり方と自らの生涯学習の見通しをたてることができる。	
	<方法>	授業中に課す小レポート30点、期末試験70点	
備考			

科目名	生涯学習概論Ⅱ		
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
	社会教育主事資格科目 / 必修		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する知識に基づき、社会教育のあり方について自らの見解を表現・発表できる	3
科目概要	授業内容	世界において生涯学習が組織化されてきた過程と今日までの展開についての歴史的的理解を得ることによって、これからの生涯学習のあり方を国際的視野にたって考える。	
	到達目標	国際的・歴史的視点から、生涯学習の今日的到達点と課題を理解し、これからのあり方を展望する。	
授業計画	(1) 近代生涯学習の誕生とその理念 (2) 社会問題の発生と生涯教育の組織化 (3) 成人教育制度と国家的整備 (4) 日本の社会教育制度の誕生とその性格 (5) 労働の変化と成人教育 (6) 成人教育の国際化とユネスコの誕生 (7) ユネスコ生涯学習論の生成と課題 (8) 南北問題と生涯学習の転換 (9) 学習権宣言と識字教育 (10) 21世紀の鍵=成人の学習 (11) 持続可能な開発のための教育 (12) 実現可能な未来のために生きることと学ぶこと：成人学習の力 (13) 世界の生涯学習の諸相—アジアとヨーロッパを素材に— (14) 国際的視野からみた日本の生涯学習の課題 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 丸山英樹ほか『ノンフォーマル教育の可能性』2013年／『持続可能な開発のための教育（ESD）をつくる—地域でひらく未来の教育—』ミネルヴァ書房 2011年／ユネスコ『持続可能な未来のための学習』有斐閣 2005年 / 新海英行ほか『現代世界の生涯学習』大学図書出版 2002年 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 国際的・歴史的視点にたって今日の生涯学習のあり方を論じることができる。 授業中に課す小レポート20点、プレゼンテーション30点、 <方法> 期末試験50点		
備考			

科目名	地域教育論		
担当者	東川 隆太郎 / HIGASHIKAWA, Ryutaro		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する知識に基づき、社会教育のあり方について自らの見解を表現・発表できる	3
科目概要	授業内容	鹿児島県の地域における生涯学習・観光・まちづくりの現状や課題、またはそれらの活動のこれからを実践事例等から地域における人材育成の手法を学ぶことを目的とする。	
	到達目標	地域で活動すること・地域で学ぶことを、実践研究や鹿児島らしいテーマから具体的に学習することで、地域教育やまちづくり活動に必要な手法やノウハウを理解する。	
授業計画	(1) 「地域・教育」ってなんだろう(地域教育総論) (2) 地域の公民館で活動する～講座開催の計画立案～ (3) 地域へのまなざし～マイヘリテージの取組・世間遺産～ (4) 地域へのまなざし～フィールドワーク(大学周辺まち歩き) * (5) 地域へのまなざし～公衆浴場という地域コミュニティー～ (6) 「考現学」で学内を見つめる * (7) 地域の「農」を考える～グリーン・ツーリズムの取組～ (8) 世界遺産へ向けた動き～九州・山口の近代化産業遺産群～ (9) 離島の魅力から地域を考える・島の人材育成 (10) 「ゆるキャラ」や「ご当地キャラ」で地域づくり * (11) 地域へのまなざし～フィールドワーク(郡元墓地まち歩き) (12) ジオパークにおける教育的効果と人材育成 (13) 地域づくりと観光～明治維新150年に向けた動き (14) 地域づくりと観光における人材育成～「まち歩き」「観光ガイド」 (15) 総まとめ *		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・鹿児島県のNPO活動や地域づくり活動に積極的に参加すること。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 【参】		
成績評価方法と基準	<基準>	授業内容を参考にしたそれぞれのレポートにおいて、オリジナリティーのある表現または創造ができたものを合格とする。	
	<方法>	4回のレポート提出70%、毎回の授業後提出の感想レポート30%	
備考			

科目名	社会教育計画論 I		
担当者	松下 尚明 / MATSUSHITA, Naoaki		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
	集中講義		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する知識に基づき、社会教育のあり方について自らの見解を表現・発表できる	3
科目概要	授業内容	生涯学習時代に地域で展開されている学習・実践等の具体的様相、それを支える論理、そして今後の社会教育計画のあり方を学ぶ。	
	到達目標	①「社会教育の問題意識」はいかに発生するかを学び、生涯学習時代の中の位置づけが分かる。②現場の社会教育が直面している問題を学び、今後の課題と方向性について理解することができる。③社会教育計画の視点と方法を理解するとともに、社会教育主事としての表現方法を学ぶことができる。	
授業計画	(1) 社会教育計画の問題意識 (2) 地域の只中に立つ社会教育主事 (3) 社会教育主事のベテランとプロ (4) テキスト熟読・討論・小論①作成 (5) 社会教育・学校教育・地域の教育力 (6) 戦前における学校教育と社会教育の融合の実践 (7) 自治の一環としての社会教育行政 (8) テキスト熟読・討論・小論②作成 (9) 学校・家庭・地域の三者連携の結末点 - PTA (10) P T Aの活動計画論 (11) 地域女性団体と活動計画 (12) テキスト熟読・討論・小論③作成 (13) 地域変動に対応するコミュニティづくり (14) 薩摩郷中教育の理念と計画 (15) 薩摩郷中教育の現代化論		
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。[意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。]	
	事後学習	書き上げた小論(400字)を翌日に提出すること。	
使用教材・参考文献	【教】	松下尚明 『地域と文化 序説』 2000年 鹿児島学術文化出版	
	【参】	松下尚明 『ドラマとしてのベッドサイド』 2013 鹿児島学術文化出版 ISBN 978-4-902709-19-3	
成績評価方法と基準	<基準>	到達目標を踏まえて「社会教育の概念理解」が達成されたものは合格とします。また、「小論の提出」がない場合は不合格とします。	
	<方法>	社会教育の概念理解の程度を見るレポート(60%)、小論(20%)、受講態度(20%)。	
備考			

科目名	社会教育計画論Ⅱ		
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次		
	社会教育主事資格科目 / 必修		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する知識に基づき、社会教育のあり方について自らの見解を表現・発表できる	3
科目概要	授業内容	社会教育計画の理論をふまえ、全国の優れた社会教育計画とその実践を考察・分析する。	
	到達目標	社会教育計画づくりのための基礎力を形成する。 社会教育計画案を実際に策定・評価できる力量を習得する。	
授業計画	(1) 社会教育計画とは (2) 社会教育主事の役割 (3) 学習者の理解 (4) 社会教育調査とその活用 (5) 社会教育事業計画① (6) 社会教育事業計画② (7) 社会教育事業計画事例の考察・分析① (8) 社会教育事業計画事例の考察・分析② (9) 社会教育施設計画① (10) 社会教育施設計画② (11) 社会教育施設現地研修① (12) 社会教育施設現地研修② (13) 社会教育の評価 (14) 社会教育計画事例の考察・分析 (15) 総まとめ *受け入れ地域との関係で、順序が入れ替わることもありうる。		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。	
使用教材・参考文献	【教】	朝岡幸彦ほか『講座づくりのコツとワザ』国土社、2013年／その他、講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。	
	【参】	『月刊社会教育』国土社／『社会教育』全日本社会教育連合会／『月刊公民館』第一法規／社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所2011年。	
成績評価方法と基準	<基準>	社会教育計画の意義を理解し、実際に社会教育企画と計画が作成できる。	
	<方法>	レポート報告20点、社会教育計画案作成40点、期末テスト40点	
備考			

科目名	社会教育演習		
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次		
	社会教育主事資格科目 / 選択必修		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する知識を社会教育の実践に応用できる	4
科目概要	授業内容	地方分権政策の推進や教育委員会の再編問題の中で、転換点にある社会教育・生涯学習施策と行政のあり方について考察する。鹿児島県および市町村自治体における社会教育・生涯学習施策の調査・分析を行う。	
	到達目標	事例考察を通して、社会教育政策や市町村の社会教育施策の分析ができるようになることをめざす。	
授業計画	(1) 日本の社会教育・生涯学習制度の概要と特徴 (2) 社会教育・生涯学習制度の歴史 (3) 地方分権改革と社会教育・生涯学習行政 (4) 社会教育・生涯学習施策の現状と課題－全国の事例から－① (5) 社会教育・生涯学習施策の現状と課題－全国の事例から－② (6) 社会教育・生涯学習施策の現状と課題－全国の事例から－③ (7) 社会教育・生涯学習施策の現状と課題－全国の事例から－④ (8) 社会教育・生涯学習施策の現状と課題－全国の事例から－⑤ (9) 社会教育・生涯学習施策の調査の方法と計画 (10) } (11) } 鹿児島県下自治体の社会教育・生涯学習施策と行政の資料収集と調査 (12) } (13) 鹿児島県下自治体の社会教育・生涯学習施策の現状分析① (14) 鹿児島県下自治体の社会教育・生涯学習施策の現状分析② (15) 調査分析の報告とまとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。	
使用教材・参考文献	【教】	大桃敏行ほか『生涯学習－多様化する自治体施策－』2010年、東洋館出版社 ISBN 978-4-491-02615-2/ そのほか適宜プリントを用いる。	
	【参】	松田武雄『近代日本社会教育の成立』九州大学出版会、2004年／島田修一ほか『自治体の自立と社会教育』2008年、ミネルヴァ書房／	
成績評価方法と基準	<基準>	日本の社会教育・生涯学習制度と行政・施策の性格の理解をふまえて、身近な自治体の社会教育施策の特徴を分析しまとめることができる。	
	<方法>	文献・資料を考察したレポート報告30%、調査発表30% 調査報告レポート40%	
備考	現地調査の交通費等は自己負担とする		

科目名	社会教育実習		
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 演習・実習 / 2単位 / 3年次		
	社会教育主事資格科目 / 選択必修		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する知識を社会教育の実践に応用できる	4
科目概要	授業内容	鹿児島市教育委員会及び社会教育施設において実習を行う。実習にあたっては、事前授業において社会教育主事の役割を中心に社会教育制度の仕組みとその意義を理解する(講義・演習)。事後授業においては、実習の反省とまとめを各自の発表のもとに行う(プレゼンテーション・討論)。	
	到達目標	実習を通して、住民の学習・文化・スポーツ活動を支援する社会教育主事の仕事の基本と役割を理解する。	
授業計画	(1) 社会教育実習オリエンテーション (2) 社会教育・生涯学習の歴史と社会教育主事 (3) 社会教育制度の仕組み (4) 社会教育主事の仕事とその役割 (5) 社会教育実習の計画 (6) } (7) } (8) } 鹿児島市教育委員会および社会教育施設において1週間程度の実習の実施 (9) } (10) } (11) } (12) } (13) 社会教育実習の省察 (14) 社会教育実習の省察 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に課する資料・文献・論文などで理解を深めること。	
使用教材・参考文献	【教】	伊藤俊夫編著『新しい時代を創る社会教育』全日本社会教育連合会、2008年	
	【参】	社会教育行政研究会『社会教育行政読本―「協働」時代の道しるべ』第一法規、2013年／社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』2005年	
成績評価方法と基準	<基準>	社会教育実習に積極的に取り組み、かつ実習についての内容・考察を適切に記録できること。ただし、実習事前・事後授業への出席が大前提であり、出席不良の場合実習そのものが認められない。	
	<方法>	社会教育実習 80点、実習事前・事後の受講態度と発表 20点	
備考			

科目名	法学概論		
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	番号
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	『法令遵守』と言われることがありますが、卒業後の社会人の常識として、「法学的思考方法」即ち「法学的ものの考え方」をしっかりと身に付けて下さい。	
	到達目標	リーガルマインドの正体が理解できる。	
授業計画	(1) 法とは何か (2) 法学的思考方法 (3) 国内法の法源 (4) 近代における社会正義の内容 (5) 現代における社会正義の内容 (6) 2つの事例を通じて社会正義の実現について考える (7) 明治憲法 (8) 日本国憲法の制定過程 (9) 国連憲章の精神と日本国憲法 (10) 国民主権主義 (11) 基本的人権尊重主義 (12) 恒久平和主義 (13) 国際社会と法 (14) 日本の領土問題 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。	
使用教材・参考文献	【教】 吉川仁編『法学入門』嵯峨野書院 2009年 4-7823-0377-7 【参】 中野進『2割司法(完結版)』近代文芸社 2004年 4-7733-7123-4		
成績評価方法と基準	<基準> 出席しない者は不合格とする。 <方法> テスト(80%)、レポートなど(20%)		
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。		

科目名	政治学概論		
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	近代の政治思想から現代政治学までを概観します。近代や現代の思想家や政治学者たちが、政治をどう捉え、どう論じてきたのかを学び、自らが今日の政治を考えていく上での糸口をつかんでください。	
	到達目標	政治学には様々な研究分野がありますが、講義ではまず社会契約論など近代の政治思想を概観し、続いて米国政治学を中心に説明していきます。それぞれの内容を把握し、幅広い政治学の見取り図が描けるようになることが、この講義の目標です。	
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 近代の政治思想① (マキャベリ『君主論』) (3) 近代の政治思想② (ボダンの主権論) (4) 近代の政治思想③ (ホッブス『リバイアサン』) (5) 近代の政治思想④ (ロックとルソー) (6) 近代の政治思想⑤ (権力分立論ほか) (7) 現代の政治学① (米国政治学の系譜) (8) 現代の政治学② (メリアム、ラズウェルほか) (9) 現代の政治学③ (ベントレーほか) (10) 現代の政治学④ (政治システム論) (11) 現代の政治学⑤ (ラズウェルのエリート論ほか) (12) 現代の政治学⑥ (パワー・エリート論ほか) (13) 現代の政治学⑦ (権力関係説) (14) 現代の政治学⑧ (多元主義とその批判) (15) 結論		
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。	
	事後学習	教科書や参考文献、講義ノート等の該当箇所を読み返して、講義内容を確認してください。	
使用教材・参考文献	【教】 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年 【参】 堀江湛、岡沢憲英編『現代政治学(第2版)』法学書院、2002年 岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』ミネルヴァ書房、2008年		
成績評価方法と基準	<基準> 講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。 <方法> 試験により評価します。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答えは評価の対象外となり、単位は認定されません。		
備考	講義中に私語をする学生の受講は認めません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。		

科目名	人権論		
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	番号
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	東洋と西洋とでは、人権概念が異なると言われることもあるが、本当であろうか。この講義においては、日本を含むアジアにおける人権問題を具体的に検討したい。	
	到達目標	現代においては、国内社会における人権問題の他に国際社会における人権問題も存在することが理解できる。国内外の人権問題の理解が容易になる。	
授業計画	(1) 人権に関する基礎知識 (2) 近代における人権 (3) 現代における人権 (4) 明治憲法下の臣民の権利及び義務 (5) 日本国憲法下の国民の権利及び義務 (6) ビルマ（ミャンマー）における人権問題(1) (7) " (2) (8) " (3) (9) 東チモールにおける人権問題(1) (10) " (2) (11) " (3) (12) 西パプアにおける人権問題(1) (13) " (2) (14) " (3) (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。	
使用教材・参考文献	【教】 中野進『アジアと自決権』信山社 2008年 4-434-12141-8 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 出席しない者は不合格とする。 <方法> 出席しない者は不合格とする。		
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。		

科目名	社会学概論		
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	社会学は、普段は意識しない「日常性」の中に、人と人の相互作用、個人と社会の関係、個人と集団の関係、社会規範・秩序など人間社会を形づくっているものを探る学問である。本科目では、人と人が関わりあう活動領域で有効かつ必要な、社会学的なものの方を取り上げ、実践してもらうことを目的としている。	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事柄について、個人的なことと社会との結びつきを認識できる。 「日常生活の自明性」を再考する発想ができる。 前近代から近・現代社会への変化のすう勢を理解できる。 	
授業計画	(1) はじめに 社会学とはどのような学問か (2) 自己意識の成立とコミュニケーションの成り立つメカニズム (3) 役割と集団 (4) 規範と社会秩序 (5) 家族という特殊性 (1) (6) 家族という特殊性 (2) (7) 家族という特殊性 (3) (8) 学校化社会と職業移行の問題 (1) (9) 学校化社会と職業移行の問題 (2) (10) 学校化社会と職業移行の問題 (3) (11) 日本の貧困問題：ホームレスと社会的排除問題 (1) (12) 日本の貧困問題：ホームレスと社会的排除問題 (2) (13) メディアと人間関係：若者のメディア使用から (1) (14) メディアと人間関係：若者のメディア使用から (2) (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は事前に調べておくこと。	
	事後学習	Moodleにて随時復習課題を提示する。	
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 別途、指示する。		
成績評価方法と基準	<基準> 社会学が目指す、自明性への問いかけおよび社会と自分の経験との橋渡しがある程度達成していることを最低の合格基準とする。 <方法> 定期試験60%、Moodle課題20%、中間レポート20%。		
備考			

科目名	社会調査法 I		
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	1
科目概要	授業内容	複雑な社会現象を捉えるための手段として様々な分野で重要性を増している社会調査についての基本的事項を学ぶ。専門的ないくつかの社会調査科目を学ぶための、第一歩目の科目である。	
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解できる。 ・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。 ・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。 ・調査者に求められる倫理について、確実に理解できる。 	
授業計画	(1) 社会調査とは何か、社会調査の真の目的・関心は何か (2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査・調査技術の高度化・多様化 (3) 社会調査の実例①—国勢調査・官庁統計 (4) インターネットで「政府統計の総合窓口」を覗いてみる (5) 統計データを加工すると、何が見える？ (6) 社会調査の実例②—世論調査 (7) 社会調査の実例③—マーケティング・リサーチ (8) 社会調査の種類①その1—量的調査・統計的調査 (9) 社会調査の種類①その2—統計的調査の具体的調査方法 (10) 社会調査の種類②その1—質的調査・記述的調査 (11) 社会調査の種類②その2—質的調査の実例 (12) 社会調査の種類②その3—質的調査で分かること・分からないこと (13) 量的調査と質的調査の比較—技法としての有効性と限界を認識する (14) 社会調査と調査者の倫理 (15) 総まとめ		
自学自習	事前学習	教科書の指示部分を読んでおくこと。	
	事後学習	不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。	
使用教材・参考文献	【教】	大谷信介他 『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』 ミネルヴァ書房、2013年。ISBN9784623066544 社会調査法Ⅱでも使用する教科書である。	
	【参】	宮内泰介 『自分で調べる技術—市民のための調査入門』 岩波書店、2004年 谷岡一郎 『「社会調査」のウソ』 文春新書、2000年	
成績評価方法と基準	<基準>	科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。	
	<方法>	レポート等の課題遂行15%・定期筆記試験85%	
備考	社会調査教育の基礎的科目であり、「社会調査士資格」取得のための必修科目の1つでもある。		

科目名	倫理学概論		
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	倫理学の基本的な問題を、現代社会の状況にも照らし合わせながら考えてみたい。功利主義とカントの倫理学を基本に据えながら、生命倫理や環境倫理まで考察を広げるつもりである。	
	到達目標	功利主義の基本的な考え方を理解する。 カント倫理学の基本的な考え方を理解する。 倫理学の諸問題について、自ら考え、表現することができる。	
授業計画	(1) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか① (2) 人を助けるために嘘をつくことは許されるか② (3) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか① (4) 10人の命を救うために1人の人を殺すことは許されるか② (5) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか① (6) 10人のエイズ患者に対して特効薬が1人分しかないとき、誰に渡すか② (7) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか① (8) エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか② (9) どうすれば幸福の計算ができるか① (10) どうすれば幸福の計算ができるか② (11) 判断能力の判断は誰がするか① (12) 判断能力の判断は誰がするか② (13) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか① (14) 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか② (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・2回おきに小レポートを課す。	
使用教材・参考文献	【教】 加藤尚武『現代倫理学入門』講談社1997 (ISBN4-06-159267-X) 【参】		
成績評価方法と基準	<基準> 講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがある。 <方法> 期末試験による。		
備考			

科目名	哲学概論		
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu		
科目情報	人間文化<関連> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次		
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達内容	レベル
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	人間・文化・社会に関する基礎的な知識を幅広く身につけている	2
科目概要	授業内容	本講義では、古代から近代に至る西洋の哲学史を概観する。自ら「哲学する」ことは、ともすれば独りよがりになるものである。哲学史を学び、適切なテーマと適切な考え方を先人から学ぶことで、哲学の全体像をつかんでもらいたい。	
	到達目標	西洋哲学の歴史について一定の知識をもつ。 哲学の基本的問題を理解する。 哲学のテキストを理解し、その筋道を追体験できる。	
授業計画	(1) 哲学するための哲学史 (2) 古代ギリシアの自然哲学 (3) ソクラテス (4) プラトン (5) アリストテレス (6) ストア派とエピクロス (7) デカルト (8) スピノザ (9) ロック (10) バークリ (11) ヒューム (12) カント (13) 現代の哲学(1) (14) 現代の哲学(2) (15) まとめ		
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。	
	事後学習	・2～3回おきに小テストを行う。	
使用教材・参考文献	【教】 ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』NHK出版1997 (ISBN4-14-08331-2 C0097) 【参】 岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書2003 (ISBN4-00-500441-5) 岩田靖夫『いま哲学とはなにか』岩波新書2008 (ISBN978-4-00-431137-9)		
成績評価方法と基準	<基準> 講義内容の理解が不十分な場合、不合格となることがあります。 <方法> 期末試験による。		
備考			